

お客様各位



農薬登録のご連絡の件

首記の件、下記について登録されましたのでご連絡致します。

記

1. 使用制限 2025 年 12 月 10 日付（2 件）

- (1) ナレート水和剤
作物名「ねぎ」を削除

登録第 17960 号

【変更される注意事項】

はくさい・たまねぎ・レタス・非結球レタス・キャベツ・ブロッコリー・だいこんの軟腐病、はくさいのべと病、レタス・非結球レタスの斑点細菌病及び腐敗病並びににんにくの春腐病に使用する場合、発病後の散布では効果が劣る場合があるので、発病前あるいは発病初期に予防的に散布すること。

- (2) オキシラン水和剤
作物名「ねぎ」を削除

登録第 21247 号

【変更される注意事項】

はくさいの軟腐病に使用する場合、発病後の散布では十分な効果が得られないので予防的に散布すること。

2. 適用拡大 2025 年 12 月 10 日付（3 件）

(1) Z ボルドー

登録第 24041 号

① 適用病害虫名の追加：りんご/褐斑病（500 倍）、ブロッコリー/黒すす病（500 倍）

② 使用時期の設定及び変更

- ・大麦、採種用小麦、かんきつ、りんご、ぶどう、おうとう、びわ、いちじく、かんしょ、ばれいしょ、やまのいも、だいず、あずき、いんげんまめ、さやえんどう、実えんどう、そらまめ、未成熟そらまめ、すいか、トマト、ミニトマト、なす、だいこん、たまねぎ、にんにく、にら、にんじん、ごぼう、はくさい、キャベツ、野菜類（キャベツを除く）、レタス、非結球レタス、ブロッコリー、アスパラガス、にがうり、かぼちゃ、ズッキーニ、くわい、さんしょう（果実）、さんしょう（葉）、こんにゃく、てんさい、なす（常温煙霧）、きゅうり（常温煙霧）／— ⇒発病前～発病初期
- ・りんどう、つつじ類／— ⇒発病初期
- ・すもも、つばき／休眠期⇒発病前～発病初期但し休眠期
- ・もも／収穫後～開花前まで⇒発病前～発病初期但し収穫後～開花前まで
- ・うめ／葉芽発芽前まで⇒発病前～発病初期但し硬核期まで
- ・ナシ／休眠期～叢生期（新梢長約 10cm まで）⇒発病前～発病初期但し休眠期～叢生期（新梢長約 10cm まで）
- ・茶／摘採 7 日前まで⇒発病前～発病初期但し摘採 7 日前まで

【変更後】

作物名	適用病害虫名	希釈倍数 又は使用量	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用方法	銅を含む 農薬の総 使用回数
麦類	黒節病	種子重量の 1%	－	は種前	－	湿粉衣	－
大麦	黒節病 赤色粒	500 倍	60～150ℓ /10a	発病前～ 発病初期		散布	
採種用小麦	黒節病			出穂 10 日 前まで			
稲	稲こうじ病	2000 倍		200～700ℓ /10a			
かんきつ	そうか病	400～500 倍					
	黄斑病	600 倍					
	かいよう病	500～ 1000 倍					
りんご	すす点病 すす斑病 褐斑病	500 倍	発病前～ 発病初期 但し休眠期				
すもも	黒斑病						

作物名	適用病害虫名	希釈倍数 又は使用量	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用方法	銅を含む 農薬の総 使用回数
もも	せん孔細菌病	500 倍	200～700ℓ /10a	発病前～ 発病初期 但し収穫後～ 開花前まで	-	散布	-
ネクタリン				発病前～ 発病初期 但し休眠期			
ぶどう	べと病 さび病 褐斑病	500～800 倍		発病前～ 発病初期			
	つる割細菌病	800 倍					
おうとう	褐色せん孔病	500 倍		発病前～ 発病初期 但し硬核期まで			
うめ	かいよう病			発病前～ 発病初期			
びわ	がんしゅ病						
いちじく	疫病	1000 倍		発病前～ 発病初期 但し休眠期～ 叢生期(新梢長 約 10cm まで)			
キウイフルーツ	花腐細菌病	500 倍					
かんしょ	斑点病 基腐病						
ばれいしょ	疫病	400 倍	1.6～3.2ℓ /10a	発病前～ 発病初期		無人航空機 による散布	
	軟腐病	16 倍				散布	
やまのいも	葉渋病 炭疽病	500 倍	100～300ℓ /10a			無人航空機 による散布	
		16 倍	3.2ℓ/10a				
だいず	紫斑病 斑点細菌病 葉焼病	500 倍	100～300ℓ /10a				

作物名	適用病害虫名	希釈倍数 又は使用量	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用方法	銅を含む 農薬の総 使用回数	
あずき	褐斑細菌病	500 倍	100～300ℓ /10a	発病前～ 発病初期	－	散布	－	
いんげんまめ	かさ枯病							
さやえんどう 実えんどう	先端黄白化症	1000 倍						
そらまめ 未成熟そらまめ	赤色斑点病	500 倍						
すいか	疫病	500～800 倍						
トマト ミニトマト	疫病 輪紋病	400～600 倍						
	すすかび病	500 倍						
なす								
だいこん	軟腐病	16 倍	1.6～3.2ℓ /10a			無人航空機 による散布		
	黒斑細菌病 白さび病		3.2ℓ/10a					
	白さび病	500 倍	100～300ℓ /10a					
たまねぎ	軟腐病	16 倍	1.6～3.2ℓ /10a					無人航空機 による散布
にんにく	春腐病 さび病	500 倍	100～300ℓ /10a					散布
	白斑葉枯病	16 倍	3.2ℓ/10a					無人航空機 による散布
にら	株腐細菌病 白斑葉枯病	500 倍	100～300ℓ /10a					散布
にんじん	軟腐病	16 倍	1.6～3.2ℓ /10a					無人航空機 による散布
	黒葉枯病		3.2ℓ/10a					
	黒葉枯病	500～800 倍	100～300ℓ /10a			散布		
ごぼう	黒斑細菌病	16 倍	3.2ℓ/10a			無人航空機 による散布		

作物名	適用病害虫名	希釈倍数 又は使用量	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用方法	銅を含む 農薬の総 使用回数	
はくさい	軟腐病	16 倍	1.6～3.2ℓ /10a	発病前～ 発病初期	－	無人航空機 による散布	－	
	黒斑細菌病、 黒腐病		3.2ℓ/10a					
キャベツ	軟腐病 黒腐病		500～ 1000 倍					1.6～3.2ℓ /10a
	斑点細菌病 べと病 黒斑細菌病	500 倍	100～300ℓ /10a					
	野菜類 (キャベツを除く)					斑点細菌病 褐斑細菌病 黒腐病 べと病 黒斑細菌病		
軟腐病		500～ 1000 倍	1.6～3.2ℓ /10a			散布		
レタス 非結球レタス	軟腐病	16 倍						無人航空機 による散布
	腐敗病	500～800 倍						100～300ℓ /10a
ブロッコリー	花蕾腐敗病 黒すす病	500 倍						
	黒腐病	500～ 1000 倍						
	黒腐病	16 倍	1.6～3.2ℓ /10a			無人航空機 による散布		
アスパラガス	斑点病 茎枯病	500 倍	100～300ℓ /10a			散布		
		16 倍	3.2ℓ/10a			無人航空機 による散布		
	茎枯病	8 倍	8ℓ/10a					
にがうり	うどんこ病	500 倍	100～300ℓ /10a			散布		

作物名	適用病害虫名	希釈倍数又は 使用量	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用方法	銅を含む 農薬の総 使用回数		
かぼちゃ	果実斑点細菌病 軟腐細菌病	16 倍	3.2ℓ/10a	発病前～ 発病初期	－	無人航空機 による散布	－		
		500 倍	100～300ℓ /10a			散布			
ズッキーニ	軟腐細菌病								
くわい	ひぶくれ病								
さんしょう (果実)	さび病	1000 倍	200～700ℓ /10a					100～300ℓ /10a	
			さんしょう (葉)						
こんにゃく									葉枯病 腐敗病
てんさい			褐斑病						400 倍
茶	炭疽病								
	赤焼病	500 倍							
	もち病 網もち病	400～500 倍							
りんどう	葉枯病	500 倍	100～300ℓ /10a	発病初期					
つつじ類	もち病		100～700ℓ /10a						
樹木類	斑点症 (シュートサーコスボラ菌)	800 倍							
	輪紋葉枯病	500 倍							

作物名	適用場所	適用 病虫害名	使用量	使用 液量	使用 時期	本剤の使用 回数	使用 方法	銅を含む 農薬の総 使用回数
なす	温室、ガラス室、 ビニールハウス等 密閉できる 場所	すすかび病	294～ 588g/10a	10ℓ/10a	発病前～ 発病初期	—	常温 煙霧	—
きゅうり		べと病						

【追加および変更する注意事項】

- ・病害の発生状況に応じ適期に使用すること。
- ・りんごに使用する場合、次の事項に注意すること
 - 1) 薬害を生じるおそれがあるので必ず炭酸カルシウム水和剤を加用すること。ただし、収穫間際には果実に汚れを生じるので留意すること。
 - 2) 日焼けした幼果では果点の褐変などの薬害の症状を助長する可能性があるので注意すること。
- ・本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病虫害防除所関係機関の指導を受けることが望ましい。

(2) フジドーLフロアブル

登録第23002号

作物名の追加: 稲(稲こうじ病)、2000倍、出穂10日前まで

かんしょ(基腐病)、500倍、発病前～発病初期、散布8倍(1.6ℓ/10a)、10倍(2.0ℓ/10a)、
16倍(3.2ℓ/10a)/ 発病前～発病初期、無人航空機による散布

適用病害虫名の追加: りんご/炭疽病、輪紋病(500～1000倍)

ブロッコリー/花蕾腐敗病、黒すす病(500倍)

希釈倍数の変更: りんご(すす点病、すす斑病)/500倍⇒500～1000倍

使用方法の追加: はくさい(軟腐病)/8倍(1.6ℓ/10a)、10倍(2.0ℓ/10a)、16倍(3.2ℓ/10a)/

無人航空機による散布

使用時期の設定及び変更: かんきつ、りんご、マンゴー、キウイフルーツ、ばれいしょ、さといも、やまのいも、
やまのいも(むかご)、かぶ、ブロッコリー、キャベツ、はくさい、レタス、非結球レタス、
たまねぎ、だいこん、ごぼう、だいず、えだまめ、いんげんまめ、てんさい/
— ⇒ 発病前～発病初期

うめ/葉芽発芽前まで⇒発病前～発病初期但し葉芽発芽前まで

茶/摘採14日前まで⇒発病前～発病初期但し摘採14日前まで

【変更後】

作物名	適用 病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	銅を含む 農薬の総 使用回数
稲	稲こうじ病	2000 倍	60～150ℓ /10a	出穂 10 日前 まで	－	散布	－
かんきつ	かいよう病	500～1000 倍	200～700ℓ /10a	発病前～ 発病初期			
	そうか病	500 倍					
りんご	褐斑病 すす点病 すす斑病 炭疽病 輪紋病	500～1000 倍		発病前～ 発病初期 但し葉芽発 芽前まで			
うめ	かいよう病	500 倍					
マンゴー	かいよう病	1000 倍	200～700ℓ /10a	発病前～ 発病初期			
キウイフルーツ		500～1000 倍					

作物名	適用 病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	銅を含む 農薬の総 使用回数		
ばれいしょ	軟腐病	500～800 倍	100～300ℓ /10a	発病前～ 発病初期	－	散布	－		
		8 倍	1.6ℓ/10a			無人航空機 による散布			
		10 倍	2.0ℓ/10a						
		16 倍	3.2ℓ/10a						
さといも	疫病	500 倍	100～300ℓ /10a			散布			
やまのいも						葉渋病		8 倍	1.6ℓ/10a
	10 倍	2.0ℓ/10a							
	16 倍	3.2ℓ/10a							
	やまのいも (むかご)	500 倍	100～300ℓ /10a					散布	
かんしょ	基腐病					8 倍		1.6ℓ/10a	無人航空機 による散布
		10 倍	2.0ℓ/10a						
		16 倍	3.2ℓ/10a						
		かぶ	黒斑細菌病			500 倍		100～300ℓ /10a	散布
ブロッコリー	軟腐病 花蕾腐敗病 黒すす病 黒斑細菌病								
	黒斑細菌病	8 倍	1.6ℓ/10a						無人航空機 による散布
		10 倍	2.0ℓ/10a						
	キャベツ	黒腐病	16 倍			3.2ℓ/10a		散布	
500 倍			100～300ℓ /10a			無人航空機 による散布			
8 倍			1.6ℓ/10a						
10 倍			2.0ℓ/10a						
		16 倍	3.2ℓ/10a						

作物名	適用 病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	銅を含む 農薬の総 使用回数	
はくさい	軟腐病	500 倍	100～300ℓ /10a	発病前～ 発病初期	—	散布	—	
		8 倍	1.6ℓ/10a			無人航空機 による散布		
		10 倍	2.0ℓ/10a					
		16 倍	3.2ℓ/10a					
レタス、 非結球レタス		500 倍	100～300ℓ /10a			散布		無人航空機 による散布
		8 倍	1.6ℓ/10a					
		10 倍	2.0ℓ/10a					
		16 倍	3.2ℓ/10a					
たまねぎ		500～800 倍	100～300ℓ /10a			散布		無人航空機 による散布
		8 倍	1.6ℓ/10a					
		10 倍	2.0ℓ/10a					
		16 倍	3.2ℓ/10a					
	りん片腐敗病	500 倍	100～300ℓ /10a			散布		
だいこん	8 倍					1.6ℓ/10a		無人航空機 による散布
	10 倍					2.0ℓ/10a		
	16 倍					3.2ℓ/10a		
	ごぼう	黒斑細菌病	500 倍	100～300ℓ /10a	散布	無人航空機 による散布		
8 倍			1.6ℓ/10a					
10 倍			2.0ℓ/10a					
16 倍			3.2ℓ/10a					

作物名	適用 病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	銅を含む 農薬の総 使用回数	
だいず	紫斑病 葉焼病	500～800 倍	100～300ℓ /10a	発病前～ 発病初期	－	散布	－	
えだまめ	紫斑病							
いんげんまめ	かさ枯病	500 倍						
てんさい	褐斑病	400～800 倍	1.6ℓ/10a			無人航空機 による散布		
		8 倍						2.0ℓ/10a
		10 倍						3.2ℓ/10a
		16 倍						
茶	炭疽病 もち病 赤焼病 網もち病 新梢枯死症 褐色円星病	500 倍	200～400ℓ /10a	発病前～ 発病初期 但し摘採 14 日前まで	散布			

【追加および変更する注意事項】

- ・病害の発生状況に応じ適期に使用すること。
- ・高温時での使用の際は薬害を生じるおそれがあるので必ず炭酸カルシウム水和剤を加用すること。
ただし、高温時以外の使用に際しても炭酸カルシウム水和剤を加用することが望ましい。また、収穫間際では果実に汚れを生じるので留意すること。
- ・稲に使用する場合は薬害を生じやすく、特に出穂期以降は生じやすいので、使用時期を厳守すること。
なお、散布後少なくとも7日間は落水、かけ流しはしないこと。
- ・水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、養魚田及び養殖池等周辺での使用はさけること。
- ・散布後は河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。
- ・無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意すること。
- ・使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

(3) 日農フォース粒剤

登録第 18313 号

- 1) 作物名「非結球あぶらな科葉菜類（からしなを除く）」「からしな」の適用病害虫名「ネキリムシ類」に、使用量「4 kg/10a」、使用時期「収穫 14 日前まで」、使用方法「株元散布」を追加
- 2) 作物名「非結球あぶらな科葉菜類（からしなを除く）」「からしな」のテフルリンを含む農薬の総使用回数を「2 回以内（は種前までの処理は 1 回以内、は種後は 1 回以内）」に変更
- 3) 作物名「ごぼう」に適用病害虫名「コガネムシ類幼虫」を追加
- 4) 作物名「ごぼう」の適用病害虫名「ネキリムシ類」について、使用量「4～9 kg/10a」に変更し、使用時期「収穫 30 日前まで」、使用方法「株元散布」を追加し、使用時期「は種時」について使用方を「播溝土壌混和又は全面土壌混和」に変更
- 5) 作物名「ごぼう」のテフルリンを含む農薬の総使用回数を「2 回以内（は種時の処理は 1 回以内、は種後は 1 回以内）」に変更
- 6) 作物名「アスパラガス」（適用病害虫名「ネキリムシ類」）を追加
- 7) 作物名「さといも」（適用病害虫名「コガネムシ類幼虫」）を追加
- 8) 作物名「やまのいも」に適用病害虫名「コガネムシ類幼虫」を追加
- 9) 作物名「やまのいも」の適用病害虫名「ネキリムシ類」について使用量「4 kg/10a」、使用時期「収穫 30 日前まで」、使用方法「株元散布」を追加
- 10) 作物名「やまのいも」のテフルリンを含む農薬の総使用回数を「2 回以内（植付時の処理は 1 回以内、植付後は 1 回以内）」に変更
- 11) 作物名「未成熟とうもろこし」（適用病害虫名「ネキリムシ類」）を追加

【変更後】

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	テフルリンを含む農薬の総使用回数
非結球あぶらな科葉菜類（からしなを除く）	ネキリムシ類 キスジノミハムシ	4 kg/10a	は種前	1 回	全面土壌混和	2 回以内（は種前までの処理は 1 回以内、は種後は 1 回以内）
	ネキリムシ類	4 kg/10a	収穫 14 日前まで	1 回	株元散布	
からしな	ネキリムシ類 キスジノミハムシ ハクサイダイニ	4 kg/10a	は種前	1 回	全面土壌混和	
	ネキリムシ類	4 kg/10a	収穫 14 日前まで	1 回	株元散布	
ごぼう	ネキリムシ類	4～9 kg/10a	は種時	1 回	播溝土壌混和 又は全面土壌混和	2 回以内（は種時の処理は 1 回以内、は種後は 1 回以内）
			収穫 30 日前まで	1 回	株元散布	
	コガネムシ類幼虫		は種時	1 回	作条土壌混和	
アスパラガス	ネキリムシ類	4 kg/10a	収穫前日まで	2 回以内	株元散布	2 回以内

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	テフルリンを含む農薬の総使用回数
さといも	コガネムシ類幼虫	6～9 kg/10a	植付時	1 回	作条土壌混和	2 回以内(植付時の処理は 1 回以内、植付後は 1 回以内)
		9 kg/10a	土寄せ時 但し、 収穫 30 日 前まで	1 回	株元土壌混和	
やまのいも	タネハエ	4 kg/10a	植付時	1 回	植溝土壌混和	2 回以内(植付時の処理は 1 回以内、植付後は 1 回以内)
	ネキリムシ類	6 kg/10a				
		4 kg/10a	収穫 30 日 前まで	1 回	株元散布	
	コガネムシ類幼虫	9 kg/10a	収穫 30 日 前まで		株元散布	
未成熟 とうもろこし	ネキリムシ類	4 kg/10a	は種時	1 回	全面土壌混和	2 回以内(は種時の処理は 1 回以内、 は種後は 1 回以内)
			収穫 30 日 前まで		株元散布	

【追加する注意事項】

- ・本剤をだいこん、ごぼうの生育期に株元散布する場合、茎葉部がぬれていると付着した粒剤により局所的な枯れが生じることがあるため注意すること。

以上